

黒河(くろこ)の会便り 第 19 号

◆ 黒河道が国の史跡に

くろこみち
黒河道が国の史跡に指定されます

黒河道は、高野山への参詣道である高野七口の一つで、高野山の表玄関口である高野山町石道の東側を通り、橋本や大和方面からの多くの人々に利用されてきました。

かつての姿がよく保存されており、歴史的価値が高いことから、高野参詣道の一つとして、国の史跡に指定されることになりました。



橋本市報 8 月号の裏表紙に「黒河道が国の史跡に指定されます」と写真入りの記事が掲載されています。

文化審議会は「名称を高野参詣道とした黒河道を含む 4 ルート【・黒河道（定福寺から高野山）・不動坂（極楽橋から女人堂への旧道）・三谷坂（丹生酒殿神社から丹生都比売神社）・高野山結界道（女人道）】について下村博文文部科学相に答申を出し、これを受けて国は、県が提出した報告書に基づき審査中です。黒河の会便り 17 号でもお知らせしましたが、早ければ 9 月か 10 月には公報に掲載され国の史跡に指定されます。順調に進めば最短で来年の世界遺産登録も可能とされています。

◆ 思い出多い“わらんだに（蕨谷）”

清水地区の明神ヶ田和から“わらんだに”を九度山町丹生川に向かって下る道は 清水小学校高学年の遠足ルートでもあった。当時の“わらんだに”には市平（いちだいら）の人たちが耕作する棚田が谷沿いに続き、春はササユリ 秋はリンドウが岸に咲くところであった。

遠足の思い出は、丹生川の河原の大きな岩に登り弁当を広げ、水遊びをして遊んだ楽しい記憶がある。太平洋戦争中（昭和 17・18 年）、伊都中学校の時代には丹生川小学校の隣に、伊都中学校の山林道場があって、150～200 人が夏休みの期間中 2 泊 3 日で山の下草刈りをしたり、冬には薪を取りに行ったりした。作業の後は、現地解散することも多かったので、帰りは近道の“わらん谷”を歩いた。戦後、わらん谷筋の棚田には杉の木が植えられ、現在は山林となってしまったが、山中に残る巨石（通称赤石）だけは昔の思い出を残している。

◆ 秋の雑事のぼり（ZOUJINBORI）

高野七口再生保存会では、第 2 回黒河道雑事登りを 11 月 23 日（祝）に実施の予定です。第 1 回春の雑事のぼり同様、花、野菜、果物等お供え物のご協力をお願いします。